

弘法大師正御影供

4月17日(日) 午前9時より



轉法輪

奇なるかな
君王一系の命
人をして一賤
また一尊ならしむ
弘法大師

令和四年三月二十一日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二四四〇三
FAX〇七四七一五二四七一七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

長く地に霜を下ろした季節が過ぎ、
柔らかい風が境内の幼い緑をゆすり
ます。

四月の第三日曜日(十七日)、当山
の弘法大師正御影供を厳修します。
みなさまどうぞご参拝いただき、共
に法悦のひとつきを過ごしましょう。

法要 午前九時より

内吉野結衆寺院総出仕

寄席 午前十時半頃より

落語家

露の団姫 (つゆの・まるこ)

太神楽曲芸師

豊来家大治朗

テレビ等でご活躍の落語家さんが
ご夫婦での来寺です。

おたのしみに!

御影供祈願札授与

お餅のふるまい

◎感染防止にご協力ください
消毒・検温に加え、堂内人数を制限い
たします。満席になり次第、別室へご
案内いたします。ご了承くださいませ。

犬飼山轉法輪寺

お大師さま
のお言葉

一國の王の言うことによって、民衆は良くも悪くも浮き沈む。不思議なものだ。大切なのは肩書きでなく、言葉に真の価値があるかどうかなの。

地鎮祭のすすめ

住職 桑山慈紹



福寺の境内から地鎮祭の鎮め物が出土しているほどに、わが国では大切にされてきました。ただ、近年は様子が変わってきたようです。

ある建築会社の地鎮祭をした時のことです。この方は毎年遠方より御祈禱を受けにこられます。御祈禱の後に少しお尋ねをしてみました。

「〇〇方面では、地鎮祭はよく行われていますか?」「いいえ、少なくともありません。地鎮祭はオプション扱いで、施主様がお決めになります。やっぱり、建築費のうえに余計にお金がかかりますから...」

「オプションに、余計なお金か...と意外な言葉に驚いてしまいました。」

次に、某水道業者さんの話です。この方は大変熱心に信仰をしておられ、初詣に月参りと、折にふれてお参りを欠かさない姿を拝見していました。

ある日、奥さまから、「主人が急に

倒れて、病院からは大変危険な状態だといわれました。御祈禱をお願いできますか」と、うろたえた声で電話を頂きました。すぐにお札を用意して拝み始めましたが、何かおかしい。ただの病気とは観じません。

思えばお仕事で扱うのは水道のこと。お客の頼みであれば、地を割り土を掘り下げて施工するのがその方の務めです。地の神・水の神の不足があると思えば、店関係者の工事安全のためにも、御祈禱をさせて頂きました。

一時は「命も危うい」と言われていましたが、お医者様の尽力もあり、元気にもどってこられました。

地鎮祭は大変大切な祈りだと思われず。目に見えないものは余計なもの、と最近の方は考えられるかもしれません。しかし、「余計」の意味には「必要な度を超えてむだなこと」の他に、先祖の善業が子孫に幸福を

地鎮祭は、土木工事や建物を建てたりする時に、その地の鎮守神さま・金神さまを祀る御祈願です。工事の安全と、建物と暮らす人が末永く無事でありますように、とお願いをします。

古くは日本最古の歴史書『日本書紀』にも記されており、東大寺や興

輪

法

轉

(3)

もたらす「余慶」もさします。子どもたち孫たちがこれからも平穩に暮らせるよう、施工に際しては事の大小を問わず、地鎮祭を行うことをお勧めします。

〈地鎮祭について追記〉

当山では施工現地での地鎮祭のほか、お寺でのお勤めも行っています。お供え物（塩水酒など）をご持参いただき、御祈祷をしたのちにご自身で供物を現地に埋めて頂きます。また工事にあたっては方位の吉凶もご確認頂き、凶相の時期を避けるようにご注意ください。

住職の随想

冬の早朝、まだ暗い中で仏さまにお給仕を始めます。各お堂の力ギを開けて、お茶・仏飯をお供えして回ります。

境内の明神社は、岡持ちに米・塩・酒・水を入れて行きます。明け方はキーンと冷え込んで手がかじかみ、痛いようにさえ感じます。

お供えをお社の小さな三方に置きながらふと思いました。「こんな寒いときに、お供えは冷えびえとしたものばかり。明神様はいつも冷えたものをお腹に入れていいのか…。」
そうだ！お水をお湯に代えてみるとどうだろう。さっそく翌日のお供えを温かい水にしてみると、明神様がお喜びになられているのを観じました。以来、冬期はお湯を供えるようにしています。

お給仕は、仏さまの前にただ物を置いて回ることではありません。誰かをおもてなしする時と同じように、「何を喜ばれるかな、笑顔になっくれるかな」と相手を思いながらさせてもらう。それがお供えの原点だと思ふのです。

光

副住職 桑山聖淳

私はカメラが好きだ。いつも持ち歩く鞆の中にはデジカメを忍ばせ、遠出するときには必ず一眼カメラを提げている。そのせいで、ときたま観光地などで、見知らぬ人に写真を撮られることもあるのだが、その度に「ああ、また勘違いさせてしまった」と申し訳なくなる。カメラは好きだが、写真を撮るのが上手なわけではない。

カメラを始めた頃の頃は、プロのような機材を使えばいい写真が撮れるはずだとあれこれ手を伸ばしたが、結論としては先述の通り。いまでは型落ちのカメラを相棒に「これでいいのだ」とある種の悟りに到達した。しかしながら、未だに「レンズ」の魅力には抗えない。光を受け止めた

家相・方位の相談をお受けいたします。新築・リフォーム・転宅の際はご相談ください。

表面のレンズが、張り合わされたガラスからガラスへとバトンを渡す過程で像が作られ、フィルムへ到達する仕組み。目の前の光景を写実的に、また幻想的に、色濃く、または穏やかに、それぞれの個性は色あせない。

レンズは世界の一瞬を切り取るというロマンだが、弘法大師はそれを世界そのものだと表現した。『即身成仏義』の中に、「重々帝網なるを即身と名づく」という一節がある。

結び目一点一点に無数の宝石がついた網があるでしょう。その中の一つの宝石が光を放ったなら、宝石から宝石へと互いに照らし合い、輝きは全体に広がっていく。その宝石が指すものは、私たち生きとし生けるものすべて。縁という網によって離れることなく、互いに光を渡し合っ

て生かされているのだと。そこにあるべき光とは何だろう。優しさだろうか。感謝だろうか。良

きも悪しきも繋がりが合う世界なら、互いの幸せを想う光を映しあつていたい。

以前古いレンズをネットで購入したら、ウクライナから送られてきたロシアンレンズと言われる、旧ソ連製のものだ。そのレンズを手に取り、今は遠い戦場にある、かの国を思う。願わくは、悲しみや怒りの光を映しあうことがないように。

火伏のお札の

お陰をいただく

檀原市 Kさん

それは節分が済んで二・三日過ぎ、轉法輪寺様から長男の厄除けのお札が送られてきた日の出来事です。

厄除けのお札と共に火伏のお札（火難を除く）が入れてありました。そのお札を早速台所の壁に貼りました。そ

しておでんを火にかけ、火を細めてそのことをすっかり忘れて外出したのです。

一時間半ほどして帰宅しドアを開けたとたん、私は心臓の止まる思いでした。おでんのこげるにおいと黒い煙が台所に充満していました。

足のふるえと血の気が引いていくのがわかりました。急いで火を止め、思わず先ほど壁に貼ったお札をなでていました。お札に向かって「ありがとう、ありがとう」と口から出て、涙が頬を伝いました。

これはお大師様がお守りくださったにちがいないと感謝の気持ちで一杯になりました。もう少し帰宅が遅れていたらなら、取り返しのつかない事になっていたと思います。お大師様の火伏のお札に、お陰を頂いた出来事です。





修行大師の祈り

ある日の午後、寺の呼び鈴が鳴り玄関に出てみると、よくお参りされるKさんの娘さん。「父が十日以上も下痢が止まらなくて…修行大師さまをお迎えに行ってくれ、と言うので…」と来られました。早速本堂の裏堂、修行大師様がお祀りされているところに行くと、なんとKさんの奉納されたお大師様が一步踏み出された状態で立っておられたのです。Kさんの必死の呼びかけがお大師様に通じたのでしょうか、なんとも不思議なことでした。

また去年の秋のことです。癌にかかれ、かなり病状も進んでおられたTさん。電話の話し声にも、病気に對する不安がありありと感じられたのでした。

そんなTさんのために何かできることは？Tさんのおばあさんが奉納された修行大師様に向かって頂こう…。

しかし家族の祈りもむなしく、年の暮れにTさんは五十代の若さで旅立たれたのでした。去年の五月には、病気をしておして遠路はるばるお参りされたTさん。がんばってくださいねと握った手に、私より力強く握り返して下さった…。

満中陰を終えたという報告と共に、修行大師様を送り返してこられたのでした。

「先生、ありがとうございます。私どもの心の支えとなり、お助けいただいた修行大師様をお返しさせていただきます。最後まで諦めず病と闘い、強烈な痛みにより力が入らなくなった手で懸命に筆を握り写経する姿、合掌する姿、修行大師様に触れる姿は今でも忘れることができません。息を引き取る最期の顔は、穏やかで安らかな旅立ちでした…。」

心よりTさんのご冥福をお祈りいたします。

雨の降る日も 風の夜も
行者の身をば 守り給う
大師はいまだ おわしますなる

合掌

寄付金御礼

皆様の温かい志を、必要とされている方にお届けしました。ご協力誠に感謝致します。

◎引退盲導犬チャリティーイベント

《二月三日》

日本サービストッグ協会主催

◎トンガ噴火災害支援

《二月二十一日～二月二十一日》

駐日トンガ王国大使館へ寄付

◎ウクライナ難民支援募金

《二月二十八日～継続中》

AARジャパン(難民を助ける会)へ

寄付予定

お子様の撰名を致します。出来るかぎりご両親の希望に沿いながら、姓名学に則った良名を選ばせて頂いております。

〈寺嫁日記〉

あした天気になあれ

その十一

小松裕衣

四生

日曜日の午後、台所で片付けをしていると、こんな会話が聞こえてきました。

三男・義典「兄ちゃんはどうな動物が好き？」

長男・嵩典「人間」

三男「人間は動物じゃない」

長男「人間も、ほ乳類やから動物やで」
次男・照典「え、そうなん？」

すると横から義父・靖典おじいちゃんがこんな話をしてくれました。

「あのな、人間も動物なんだよ。四生という言葉を知っているかな。地球上の生き物の生まれ方には四つの形がある。」

①胎生…人類、けもの類。これがほにゆう類や。

②卵生…鳥やへび、は虫類。卵で生まれるもの。

③湿生…湿気から生まれるもの。コケやカビなど。

④化生…自らの業力よって忽然として化成すること。諸天、地獄および中有の有情、つまり幽霊やおばけなんかも入る。

おまえ達はお母さんのお腹の中でひとつの細胞から育って、十月十日しつかり命を養ってもらって生まれてきた。犬や牛なんかも同じや。母親のお腹の中で育って生まれてくるけど、生まれてもまだ未熟。だから、おっぱいを飲んで育つんやで」

義父の話に私も興味津々。メモをとりながら子ども達と一緒に聞きました。

私も幼い頃よく祖父のお説法を聞

いていたな…この子達が大人になっても、こんな風におじいちゃんに教えてもらったことを忘れないでいてほしいと思いました。

ここ一番という日の朝、受験や部活の試合などの日には、出掛けに必ず祖父が私の背中をポンとたたきおまじないをしてくれました。

「頑張れ！念ずれば花開く！」

祖父の温かくて力強いエールが背中を通して伝わってきました。私も今、子どもたちに同じおまじないをして見送っています。大丈夫、きつとうまくいく！元気にいつてらっしゃい！と願いをこめて。

その夜、布団の中で義典が「母さんは四人も子どもを生んだんだね。すごいね」と褒めてくれました。六歳の我が子の思いがけない労いの言葉に、おもわず笑いながら、幸せな眠りにつきました。

(7) 轉 法 輪



第五回 「言語道断」

「ねえ、ウチの旦那このまえ勝手にクルマの契約してきたの。一言も相談なしって、ありえないでしょ。言語道断、ってすぐ止めさせたわ…」

もつてのほか、あきれてものが言えないというこれ、仏教語です！

近年まで良きも悪きもひとしく、「言い表せないほど」の意で強調に使われていました。夏目漱石の『吾輩は猫である』でも、ツクツクボウシが舞うときの早さ見事さを「言語道断」だと表現しています。

実は悟りの境地も同じく「言語で説明する道が断られた」の世界なのです。皆さんご存じの般若心経でいわれる

「空」。深い真理の智慧だから的を射た説明がつかない。だからあえて「ギャターギャター…」と原文を翻訳せずに、意味を解せない言葉で締めくくっています。真言も同じことですね。直訳はできるのだけど、本質を損なうから訳さない。言語道断なわけです。

悩み苦しみが必要な世界に生きる我々の言葉によつて、悟りを理解しようとする事自体が誤りを生むし、真理から外れてしまうという、ヤヤコシイことになります。

そもそも、私たちが生きる世界は辻褄が合わないことばかりですよ。でも、理解できないものをそのままにしておくのは気持ち悪いと思うし、落ち着かないものです。だから自分に都合のよい解釈や理由付けをして納得しようとする。結果また悩みの袋小路に入る。あるがままを受け入れたらいい。そのままがいい。これが「言語道断」のもつやさしさであり、仏の智慧なのかもしれない。

お寺でお勤めしませんか（長期勤務歓迎） 犬飼寺スタッフ募集

【受付・事務員】

仕事内容 受付・事務作業・お守り販売等
勤務時間 8:00～17:00（時間応相談）週3～5日
時給 1,000前後※交通費含む（賞与あり）
雇用形態 パートタイム
募集人数 2名
応募条件 20～60才 性別不問
基礎的なPCの知識がある方（ワード・エクセル等）
几帳面な方・習字経験者

【作務員】

仕事内容 境内・寺内の作務・掃除等。
勤務時間 8:00～17:00（時間応相談）週3～5日
時給 1,000前後※交通費含む（賞与あり）
雇用形態 パートタイム
募集人数 1名
応募条件 20～70才 性別不問
庭掃除・片付けが好きな方

どちらも、参拝に来られる方々が初めに会うのが、受付であり作務員です。人と接するのが好きな方が向いています。また大きな法要の中心になる、責任ある仕事です。お寺や仏さまが好きな方に来て頂けるとうれしいです。

本誌『轉法輪』に掲載する寄稿文を募集しています。仏さまに関することや、心動かされたエピソードがあれば寺務所までお送りください。



正御影供

来る

4月17日(日)

法要 午前九時より

寄席 午前十時半頃より



落語家 露の団姫(つゆの・まるこ)

1986年生まれ。上方落語協会所属の落語家。兵庫県尼崎市在住。

小さい頃からの「死」に対する恐怖をキツカケに仏教に触れ、高校在学中に人生指針となる法華經に出会う。卒業を機に落語家、露の団四郎へ入門。2011年、天台宗で得度。2012年、比叡山行院で四度加行を受け正式な天台僧となる。年間250席以上の高座と仏教のPRを両立し全国を奔走する異色の落語家。

だいかくら
太神楽曲芸師 豊来家大治朗

1978年生まれ。太神楽曲芸師。

太神楽は、厄払いの獅子舞、縁起物の曲芸を中心に演じられる四百年以上の歴史を持つ伝統芸能。2000年より太神楽曲芸師ラッキー幸治に師事し、芸風は大技から伝統的な太神楽曲芸まで豊富で、日本でただ一人とされる「剣の輪くぐり」を最も得意とする。キリスト教の洗礼を受けているクリスチャンでもある。

— お世話人さま

— ご奉仕のお願い —

四月十六日(土) 旗立て・お掃除など
四月十七日(日) 当日(八時から)

正御影供の当日お手伝いをよろしくお願い申し上げます。



お世話人様は、ハッピー袈裟腕念珠をご着衣ください。
コロナ感染状況に応じて、予定を変更する場合がございます。ご容赦くださいませ。